

## 議案第91号中、歳出、款1、議会費の減額補正についての反対討論

自民クラブ 村上和久

議案第91号中、歳出、款1 議会費の減額補正について、反対討論を行います。

まず、議会からの申し入れにより提案された本件に対し、反対討論が行われることに、当局側は、理不尽さを感じておられることと思うが、二元代表制の一方の当事者である議会が、そしてこれを構成する議員が、その存在意義並びに誇りと使命感を失わないための反対討論であり、その矛先は我々議員自身に向いていることをもってご理解いただきたい。

(意義)

本件は今年度の議会運営委員会及び4常任委員会の県外行政視察を行わないことによる減額であるが、委員会視察は現に懸案となっている課題や今後議論すべき課題、議員提出議案とすべきものなど、すなわち採決に直結する事案や関連する項目などを調査研究するものであり、議会が責務を果たすために必要な職務の一つで、いわゆる不急に当てはまることがあっても、不要のものではない。

政務活動費による視察で補完できる、との意見があるとしても、委員会視察には会派視察では代替できない性質があることを指摘する。委員会視察は思想信条、支援母体、所属政党や会派が違う議員が視察先で、同じものを見、同じ説明を聞き、他の議員の質問を聞き、各人がそれぞれの感想・意見を持ち、その後の政策提案・討論に活かすことに意義がある。

また、委員会視察は視察先のみならず、その道中や会食時における議員相互の意見交換も盛んで、任意のメンバーで実施する視察ではないこともあってか、ときに思わぬ激論が交わされる有意義な場面を見ることもある。

次に、インターネット等の情報収集手段で、補完できる、との意見があるとしても、ネット検索等では代替できないことを指摘する。先進的、画期的施策の多くは、極めて熱い、やる気に満ちあふれた職員等によって実現されており、現場で生の声を聞き、成功の鍵はもとより、施策の失敗例や遅延、それにまつわる裏話など、公開されない苦労話を知ることには視察の意義がある。

昨年、私は、東京都目黒区議会に伺い、議会BCPについて調査を行った。その後、議会運営委員会も同じく議会BCPについて目黒区議会を視察する予定であったが、令和元年東日本台風の影響で実施されなかった。

この議会運営委員会視察が実施されていたら、その後の議会BCPを議題とした各派代表者会議及び議会運営委員会において、オブザーバー議員や委員外議員の意見に対して、もう少し、かみ合う議論が展開されたのではないかと、どの残念な思いがある。

今議会の一般質問において、新型コロナウイルス感染症対策について、多くの質問が行われたことは当然であり、他の自治体の取り組みが例に挙げられたことから、今年度の常任委員会及び議会運営委員会の視察は、自治体の新型コロナウイルス感染症対策事業及び、議会BCPの運用をはじめとした議会の対応等を視察項目の一つとすることが必然である。

新型コロナウイルス感染症対策は自治体にとって初めてのことが多数あり、効果的施策の他、施策の改善や工夫について、情報収集及び調査研究を行うことの意義は本市にとって非常に大きい。

#### (視察の時期)

本市議会は、昨年度から、決算審査の成果を次年度予算編成に反映するため、10月中頃までに決算審査を終える日程とした。昨年、3つの常任委員会は8月に視察を実施しているが、今後は、決算審査後に常任委員会視察を実施することで、決算審査と相まって議会の機能がより有効に発揮できると考える。

受け入れ先の負担に配慮し、状況を見極め、環境が整った時期に、視察受け入れをお願いしたい。

#### (費用対効果)

少しでも議会費を節約するなら、現在カラーとなっている議会だよりの表紙、裏表紙をモノクロにすることが考えられる。先般の議会報編集委員会で、委員外議員として提案したが、カラーの方が、手に取ってくれる、興味を引くとの理由でカラーのままとすることとなった。議会が一丸となって、コロナ禍に苦しむ市民の痛みに応えるという熱意からすると、たとえ1回の発行で10万円足らずの節約でも、今年度はモノクロ化するのが道理であると考えているが、委員外議員の発言を丁寧に扱っていただいた泉委員長

に敬意を表し、カラー写真の持つ潜在能力と委員のセンスにより、カラーでなければ伝えきれない議会の出来事が素材として選ばれ、ページが充実することを期待する。

そこで、費用対効果について述べる。全国市議会議長会会長からの当分の間の視察自粛要請及び国の新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言等により、政務活動費による視察は一定期間行われず、結果として例年より多い不用額、返納額が見込まれたところであるが、この6月議会の初日に7月以降の政務活動費の半減案が、賛成多数で可決され、コロナ禍基金に積み立てられることとなった。この判断が正しく、大きな効果をもたらすとするならば、この上さらに、委員会視察を行わず、その予算を一般財源に組み替える必要性は、どれほどあるだろうか。

委員会視察を実施しないため生じる減額分を新型コロナウイルス対策事業に振り替えるとのことだが、議会からの申し入れがなければ、これらの事業は提案されなかったのか。委員会視察を中止しなければ、これらの事業は実施できないのか。委員会視察を行わないことを議会が、5月8日に決定する必要性も必然性も感じることはできない。

議会運営委員会及び常任委員会視察の意義及び費用対効果は、市長が出演されたテレビコマーシャルをはじめとした、各種の新型コロナウイルス感染症対策事業と比較して、劣るものではなく、議会の仕事を削って、その予算をコロナ禍対策事業へ、という論理は私の感覚では納得しかねる。

#### (提案の過程)

本議案は、議会からの申し入れによるものであるが、その発端は、いかにも唐突で、十分な議論が成されなかった。申し出前日の5月7日午後に開催された各派代表者会議で、自民党会派からの提案について、議長はオブザーバーにも意見を求めたが、当日の協議事項には予定されておらず、全会派の出席ではなかったことで、持ち回り審議となった。全会派に意見を求めるなら、協議事項を明らかにした上、改めて全会派を招集すべきではなかったか。日程の都合という理由で、議論を極端に端折ることは、厳に慎むべきである。

本事案に限らず、以前から、議会事務局職員が会派控室を回り意向を聞く、持ち回り審議が散見されるが、それだけでは意見交換や討論が不足し、他の議員の意見に対する理解が深まらない。つまり、それぞれの議員が持ち合わせている知見が十分に反映されないため、全体として、より良い結論に届いていないと思われる。今回の経過もその例に漏れない。

視察も議論も広く知識を求め、他の議員の思いや考え方を理解することに努めなければ、議員の能力、議会の総合力は向上しない。

#### (全会一致)

全会一致について述べる。たとえばコロナ禍により具体的に財源不足が示され、それに伴い議会費も応分の削減が必要となれば、何をどの程度削減するかを検討するのが手順であり、今年度の議会費削減の必要性さえ合意形成がないまま、本来相容れないと思われる議会費削減案が五月雨式に出され、優先順位の考察が許されない状況下で、“全会一致”を金科玉条のごとく掲げられ、その調整を任務とされた舎川議長のご苦勞は、察して余りある。

議会は、硬直化した一つの結論を急ぐのではなく、まず目的や必要性について賛同を得て、その達成に最も相応しい施策について、各会派の提案を机上に並べ、十分な議論の上、結論を出すべきである。

最近、我が議会では、“全会一致を目指す”という発言を耳にすることが多くなったが、そもそも全会一致は良い事だという思考を疑うべきであり、十分な議論がないまま、水面下で調整という名の妥協を繰り返すことは、“全会一致の幻想”に似て、“集団思考”(集団浅慮)の危うさを抱えていることを指摘する。

念のため申し添えるが、私は“悪魔の代弁者”を買って出たのではなく、本心から反対である。

#### (結論)

結論を述べる。議会費を減額することが“善”で、これに反対する者は“悪”であるかのような評価を恐れて、委員会視察を実施しないとすると、それは議員が自ら、その存在意義を低下させるのであって、市民の負託に積極的に応えんとする姿勢とは相反するものである。

さらに、会派視察は自費で行くことも可能だが、委員会視察は“公務”であり、これを実施しないとすることは、議員の職責を著しく損なわせ、職務遂行の機会を奪うものであり、許容できない。

我々は、コロナ禍に苦しむ市民の痛みに応え、これを克服するためにも、今は、インターネット等による調査を十分行っておき、コロナ禍終息後に、旺盛な意欲と自信をもって委員会視察を実施すべきであり、これこそが、市民の負託を受け、一丸となって職務に邁進する議員の、そして議会のあるべき姿である。

以上のことから、議会運営委員会及び4常任委員会の視察を行わないことを第1四半期の現時点において判断し、議会費を減額する本件は、まったく時期尚早であるばかりか、富山市議会並びに議員の責務及び存在意義までも自ら否定しかねない、極めて危ういものであることを指摘し、反対討論とする。